



全国ルーエッセー

高知県

これまで高知県の片田舎で、十三年ほど地域医療に携わってきた。一口に地域医療といっても地域によって特徴があり、一言で語り尽くせるものではない。しかし都会の病院勤務との大きな違いの一つは、自分がその地域で、家族と一緒に生活していることだろう。

町中で相談受け

学生時代、それを「近接性」や「継続性」といった難しい言葉で習った。当時は試験に出るから覚えたようなものだったが、要するに具体的には、町の住民として、運動会や敬老会に参加するということだ。難しくも何ともない、当たり前なことだが、これが結構意味のあること

ま と ば し ゅ ん
的 場 俊 15期生、1992年卒



南国土佐というものの、梶原町は土佐のチベットといわれるほど冬は積雪がある

梶(ゆす)原町立梶原病院

【私の勤務地】ベッド数30床の小さな病院だが、人口4300人の山間の町で唯一の入院施設を持つ病院。病院は町の中心にあり、保健福祉支援センターと併設されている。常勤医師は5人で、すべて自治医大卒業生。交代で24時間365日、救急患者さんに対応している。

近接性、継続性かみしめて

となのだ。ある日、子供と町内の店に出かけた。子供を連れて行ったのは、子供とのスキンシップになるだけでなく、地域の人にも親しまれやすいためた。仕事以外

の用事では、できるだけ子供を連れて歩くようにしている。そこで、見慣れた顔の店の人

と雑談をしていたときのことだった。「先生、最近よ、妙に便がおかしくて。便に血が混じるんよ。病院に行かんといかんと思っではいるんやけど、なかなか怖くてよう行かんよ。やっぱり行かないかんろうかねえ？」

町中で人と会うと、あいさつもそこそこに、健康問題の相談を受けることが多い。仕事とプライベートが区別されないこと甚だしいが、良くも悪くもこれが地域医療の一場面だ。「そりゃあ、いっぺんみせてや。検査の予約入れとくから、来てよ」と、真顔になって相談に乗って

いた。予想されたとはいえずに緊張感が走る。普段、お付き合いのある人だけに、進行がんを見つけたときはどっと冷汗が出たが、ここは医療の窓口として対処しなければならぬ。

進行がんを発見

案の上、大腸の内視鏡検査で、肛門(こうもん)から十センチの場所の直腸にがんが見つかった。観察中にも、じわじわ出血して

あのととき、自分が店に行かなかったら、また話し掛けられなかったら、彼は必ずする病院に行かずに、病気が進行していたかもしれない。こういうところが、地域医療の醍醐味(だいごみ)だ。だどつくつく思う。こうした体験を、見学にくる学生や、研修医にしてみたいし、伝えたい。大学の講義で受けた「近接性」や「継続性」という言葉の意味はこういうことなのだ。

(次回予定は広島県)